

H. 2015年 7

六月（今月の掲示板）

真宗大谷派・願成寺

仏教は、生きる中に喜びを見出す教えです

仏説・無量寿経（下巻）に『人間は欲求不満に苦しみながらアクセク動き回り、自分の生活だけを守ろうとし・金錢の事で悩んでいる。が、お金・田畠・家を持ってば盗まれないか・壊されないかと、周りの人々を疑い・恐れ・怒り、毎日一喜一憂し・自分の心に振り回され、疲れ果て・安らぐ時が無い。貪欲（欲深い）・瞋恚（怒り）・愚痴の自分が心を見よ。……悟った人の教えを頂き、阿弥陀仏の喜びの世界に生まれたいと願いなさい』とあります。

正信偈に『不斷煩惱得涅槃（迷いを消さず覚りを得る）

|| 悔み多い私が阿弥陀仏に救われていた』とあります。

我々は人と比べて『私だけが辛い人生だ』と愚痴ります。が、水が流れ下るよう、人生は成るようなって行くとの真実＝法を説くのが仏教です。思い通りにしたいとの我執が苦惱の原因であり・常に仏様に見守られている（同行二一人）と思い当たるのが信心です。念佛と共に『日是好日＝毎日・善い日』の生活をしたいのです。

主な参考資料

- (1)高松信美(著)『現代語訳・大無量寿経一躍動するいのちを生きよー』(法藏館、p.103～111(2011年))
- (2)本多静芳(著)『まことの念佛信心一世間を相対化する人格成長』(在家仏教・協会、p.12～32(2015年6月号))
- (3)奈倉道隆(著)『いのちの宗教・いのちのケア－智慧と慈悲に導かれる医療と介護－』(在家仏教・協会、p.10～20(2015年5月号))